別所線エコチケ　～長野県上田市での公共交通サブスクを目指した取り組み～

（一社）自然エネルギー共同設置推進機構（NECO）／NPO 上田市民エネルギー
栗本京子
https://eneshift.org/

はじめに

上田市民エネルギーおよび NECO は「太陽光発電（相乗りくん）」「学校断熱」「まちづくり」を 3 本柱として活動している。まちづくりには公共交通の活性化が欠かせないと考え、2025 年度は国土交通省の補助金を活用して、上田市内を走る「上田電鉄別所線」のサブスクリプションチケットの実証実験を実施した。この実験の役割・位置づけは「①利用行動やニーズの変化を検証し行政への制度提案に必要なデータを得る」「②実際の導入を想定した制度設計に向けた参加者の受容性・効果の確認」「③限られた予算内で実効性のある検証方法を選ぶ必要がある」の 3 点。中長期的な目標は「①通勤・通学時間帯も含めて別所線の乗降者数全体を増加させる」「②特に、サブスク支援制度を行政が後押しする体制をつくる」「③上田市全体の公共交通の利用転換・習慣形成を支援する」の 3 点である。なお、「別所線エコチケ」の名称は「economy（格安であること）」と「ecology（公共交通の利用を促すことによる CO2 削減）」から名付けた。

１．ヒアリング・研究～可能性を探る～

実現に向けて、交通事業者や複数の有識者にヒアリングを行った。上田市内を通る「しなの鉄道」には、過去に販売していた格安の「シルバーパス」についてヒアリングした。65 歳以上の設定にもかかわらず通勤利用者が思いのほか多く、通勤定期券から乗り換えたケースが多かった。また、交通政策を専門とする研究者からは、通勤定期券利用者の家族に割引券を販売するドイツの取り組みを教わった。ボリュームゾーンと考えていた高齢者限定、あるいは通勤・通学定期券利用者から派生するチケットなどいくつかのパターンで検討を重ねた。新規のチケットや運賃は運輸局の許可が必要なため現実的でないと考え、最終的に既存の回数券（5500 円分を 5000 円で販売。使用期限なし）を流用し、「販売価格 5000 円のうち 4000 円を補助金から補填して購入者の負担は 1000 円（割引率約 80%）、先着 1000 枚」とした。「期限あり」「乗り放題」のサブスクとは性格が異なるが、格安にすることで実質乗り放題と感じられるようにし、事後アンケートを 1 ヵ月後に実施することを前もって周知し、それまでの間にどれくらい利用されるかを調査することとした。

２．実現に向けて①～上田電鉄への提案～

上田電鉄には 2025 年 4 月に実験の打診をし、9/18 に具体的な企画案として提案した。さまざまな調整を経て、毎年春・秋恒例の「マイレールチケット（割引率 16%）」販売後の 12/1～21 の 3 週間で「別所線エコチケ」として販売することに決まった。

３．実現に向けて②～アプリの選択肢も～

成否を分ける要素として重視していたのは、上田電鉄が導入しているスマホアプリ「TicketQR」での販売だった。利用者の利便性はもちろん、窓口販売の負担を減らす狙いもあった。上田市はコロナ下の消費喚起策で同アプリを使用していたため、市民の間で広く普及している。開発・運営を担う有限会社

和晃の全面協力を仰ぎ、事前アンケート回答→自動返信メールでパスワード付与→アプリチケット購入という導線を実現できた。アンケートは Web と紙、チケットはアプリと紙で用意した。

４．発売開始 2 日で完売

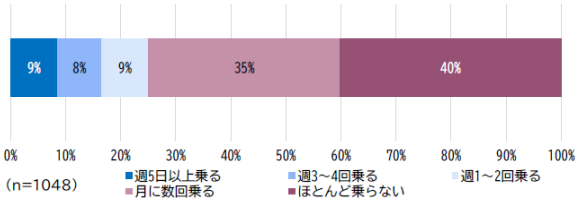
TicketQR アプリは和晃の勤務時間と曜日の関係で 3 日前の金曜日夕方に、Web アンケートフォームは前日夜にオープンした。発売日の 12/1（月）朝の時点で、アンケートフォームに 250 の回答が寄せられた。告知期間が短く、ポスターや折込チラシ（左上写真）以外に直前に地元紙で取り上げられた程度だったため販売に不安があったが、想像以上に反応がよく嬉しい悲鳴となった。

紙チケット（右上写真）販売唯一の窓口である上田駅では、窓口が開く 7 時半には 13 名の方が並んでいたとのこと。アンケート記入用の長机や、行列に備えた貼り紙は上田電鉄の職員が機転を利かせて用意してくださり、記念きっぷなどの販売で慣れている様子が垣間見えた。Web アンケートに答えて紙チケットを求める方、お孫さんのためにと隣の市から来られた高齢男性、この機会に別所線に乗りたいというご夫婦、ちょうど通学定期券が切れるという大学生など、購入動機は多様であることが分かった。12/3 未明には予定枚数が売り切れた。紙チケットが 406 枚、TicketQR アプリが 604 枚、計 1010 枚で終了した。

おわりに

1/19 から事後アンケート（1 月末消印有効）を郵送もしくはメールで送付し、1/31 消印有効で回収。回収率は約 50%。

2/10 時点で、事前アンケートから以下の事実が見えてきた。①回答者の 2 割が学生。②購入者のうち「(別所線に）ほとんど乗らない」が 40%、「月に数回乗る」は 35%で、計 75%はふだん乗っていない人にリーチできた。



12/1～１/21 の乗降データからは、①エコチケ購入者の 44%が別所線未利用で、購入したものの活用していない可能性。②紙チケット購入者と比較すると、アプリチケット購入者のほうが利用している。③休日の利用が平日と比較して少ない一方、「別所温泉駅」利用者は休日の方が多く、多様な移動目的に活用されている可能性などが分かった。

2 月に事前・事後アンケートと乗降データのさらなる分析を進めるので、3 月の大会時にはある程度の結果をお伝えできる見込みである。公共交通を気軽に使えることが住む人の外出をうながし、交流や活動が増え、活気あるまちづくりにつながると考え、ゆくゆくは、上田地域の公共交通を 1 枚のチケットでシームレスに利用できるサブスクチケットを実現したい。